

和名倉山山行報告書

M4 田中李樹

○日程

2014年11月29日(土)～11月30日(日)

○参加者

S61 卒吉筋正雄先生 M3 田中 M2 塙 C1 上村

○行程

1日目

道の駅大滝温泉 6:00～8:00 高滝下吊橋分岐(右岸道合流点)～10:10 曲沢～12:40 金山沢
～14:30 1290M 肩小屋跡～17:00 1832M 平坦地(テント泊)

2日目

1832M 平坦地 6:30～7:00 八百平～7:30 千代蔵沢(水場)～8:00 和名倉山～8:50 市ノ沢
ノ頭～9:20 1810M 索道中継点跡～9:30 1750M 笹藪上～11:00 1550M 二重山稜～11:30
尻無ノ頭～12:30 1350M 笹藪下～16:50 大洞ダム～17:30 鮫沢橋

○本文

S61 卒吉筋先生のご指導のもと、和名倉山のバリエーションルートを辿った。雨天のため
写真を撮る余裕もなかったため、簡単なものになってしまうがご報告。

前日夜、レンタカーで都内を出発し登山口近くの道の駅に到着した。先についてテント
を張っていた吉筋先生と合流し、暫し仮眠をとる。朝 6 時ころ登山口へ向け移動を開始し
た。下山してくる予定の鮫沢橋に車一台をデポし、もう一台で高滝下吊橋に向かう。本格的
に雨が降っていて、気が滅入る。午後にかけて回復に向かうという予報を信じ、8 時頃登
山を開始した。高滝下吊橋は、金属製の立派なものだった。誰が使うのだろうと不思議だ
ったが、その後ルート上の看板を見ていると、林業や釣りで山に入る人は一定数いるらし
い。

右岸道に乗ってからは、斜面に付いた細い踏み跡を辿っていく。歩きにくいことはない
が、雨が強くつらい。休憩も取れず無心で進んでいく。進むに連れて道は荒れ、ところど
ころ岩の斜面をトラバースする。雨で滑りやすかったが、なんとか通過。

金山沢に到着したのは予定より 2 時間遅れになってしまった。この辺りまで私が先頭を
歩いてきたが、雨の影響もあるとはいえもう少しペースを早めておくべきだった。この後
吉筋先生にカバーして頂き無事下山することが出来たが、計画を狂わせて大いに負担をお
掛けしてしまった。深く反省。

金山沢では多少雨が弱くなっていたため、この日初の休憩を取る。下級生 2 人は私以上
に苦しい道のりだったと思うが、黙ってついてきてくれる根性のあるメンバーで本当に良
かった。おそらくは最後の水場になるため、沢で十分に給水。

ここから先は八百尾根に取り付こうとするが、非常にルートが難しかった。はじめに取

り付いた小尾根は途中で岸壁にかわり、無理やり撤退。次に取り付いた尾根を辿ると、1290M 肩小屋跡に到達した。しかし、ここまでの道のりは踏み跡も殆ど無く、吉筋先生の記憶に頼らなければまず到達不可能だったと思う。どこかで踏み跡を外していたのかもしれない。小屋跡にはゴミが散乱し、普段なら幻滅な光景だが、その時の自分は人の痕跡を見ただけで何処か安心感を覚えた。雨もやんで気分が楽になる。

八百尾根は広い尾根で、途中気味が悪いほど立派な道もあった。昔は多くの人が入り込んでいたのだろう。登って行くと次第に枯れ笹が多くなる。鹿道をつないで進んでいく。吉筋先生いわく、かつては生きた笹に覆われていた場所らしく、少しずつ植生が変化していることが窺われる。

17 時頃、1832M 平坦地に到着する。予定していた地点ではないが、日暮れも近いためここで幕営する。翌日の行程が長くなってしまったことが不安だが、幕営地としては非常に快適だった。

翌朝 6 時半頃、テントを撤収し出発した。すぐに倒木が多い上りになる。日が暮れてから進むのは相当厳しそう、幕営地の決定は正解だった。八百平に到着すると、周囲はまばらな樹林帯で、登ってきた朝日と相まって、さわやかな景色だった。一般登山道に乗り、快適な散歩気分ですぐに進む。途中右にトラバースする踏み跡をたどり、千代蔵沢の水場に出る。細い水場だが信頼できそう。鹿が何頭も水を飲みに来ていて、ホモサピエンスの訪問を不思議そうな顔で見つめていた。若い鹿は好奇心が強いのか、わざわざ近くまで我々を観察に来ていた。適当に稜線に戻り、和名倉山山頂に向かう。山頂は木々に囲まれていたが、その手前で視界がひらけ周囲の山々を拝むことが出来た。記念撮影をして下山開始。

1810M 索道中継点跡までは 1 時間ほどで簡単に下ってきた。しかし、そこから更に下ると濃い笹藪に突入する。出来るだけ尾根を辿るが、あまりに笹が濃いところは北側斜面に逃げつつ進む。鹿道を辿るものの、半分は自分の体で笹をなぎ倒していった。低木も混じっていてたちが悪い。

尻無ノ頭が笹藪のピークで、ここは背丈より高い笹の中を突き進む。鹿道がトンネルのようになっているが、尾根筋ではない平坦な地形のため、進む方向を見定めるのが非常に難しい。吉筋先生のアドバイスに従って、笹藪の合間にある木々を繋ぐようにして進んでいく。やっとの思いで尾根を見つけ下って行くと、やがて周囲の笹藪が枯れて倒れ、見通しが良くなる。ここも、以前は生きた笹藪であつたらしい。予定より随分時間を短縮できた。

1350M 笹藪下、1070M 炭焼窯跡までは順調に進むが、ここから先の尾根筋がはっきりしない。赤テープの目印を信頼して下るが、次第に尾根が急になり怪しい雰囲気。吉筋先生がこの辺りは目印を必ずしも信頼出来ないと心配されていたが、その懸念が現実になる。たどってきた小尾根は崩落斜面の左岸に吸い込まれてしまった。左の尾根には簡単に登れたので、偵察に行くとその先は笑ってしまいそうな断崖絶壁であった。眼下に大洞ダムが見え、崩落斜面の右岸が正解の尾根だとあたりを付ける。

登り返す時間は無いので、崩落斜面をトラバースして右岸の尾根に取り付けないか、吉筋先生が単独で偵察に行って下さった。このトラバースが出来なければこの日の下山は諦めようかというところ、先生が戻りトラバース可能とのこと。全員で右岸の尾根に取り付く。怪しい箇所もあったが、先生が先回りして細引きを固定してくださっていた。1時間かからないうちに大洞ダムに辿り着いた。ダムに到着して30分も立たないうちに日が落ちて周囲が暗くなる。ぎりぎりのところで間に合った。一同緊張から開放され安堵の表情で、おもわず写真を撮る。その後は林道まで慎重に登り返し、17時半頃車に戻った。もう1台を回収し、深夜に帰京。

2日間吉筋先生にお世話になりっぱなしの山行であった。つらい部分はあったものの、先生のお陰で危険は犯すことなく山行を終えることが出来た。何度お礼を申し上げても足りないほど。私としては反省点が非常に多いが、この経験を今後に活かしたい。予定通りに行かなかった一方、学べる点の多い大変充実した山行でもあったと思う。2日目には雨も上がり、全体的には楽しい記憶のほうが優っている。下級生2人には苦しい思いをさせて申し訳なかったが、先生のご協力で貴重な経験にはなったと思う。何かの役に立ててもらえれば嬉しい。



立派な吊橋。



金山沢で記念撮影。雨でレンズが濡れてぼやけてしまった。



右岸道の細い踏み跡を辿る。



八百尾根の踏跡。らしき何か。



雨が上がり多少景色が見える。



千代蔵沢(水場)。



幕営地から。雅なり。



和名倉山山頂で記念撮影。カメラを地面において撮ったら傾いてしまった。



2日目。八百平付近で迎えた朝日。



ナシ尾根から山頂を振り返る。この日は良い天気。



尻無ノ頭。嫌になりそうな笹藪。



無事大洞ダムに下りてきて安堵の表情の埴君。



同じくひらく君。